

あなたから始まる命の連鎖



みなさんもし目の前で人が倒れたら、落ち着いて行動することができませんか。また、救急車が必要なほどのような時か判断できませんか。

9月9日（水）は「救急の日」です。そして、その日を含む9月6日（日）～9月12日（土）までの1週間、救急医療週間となり、救急業務や救急医療についての理解と認識を深めることを目的としています。今回の特集では、救急車を呼ぶ際の注意点や呼んだ際に準備しておく便利なもの、救急車の適正利用などについてご紹介します。

◆適切な救急車の利用を

救急車は、突然の重い病気やひどい怪我をした人を、適切な医療機関に搬送するためのものです。

熊野市消防本部が令和元年度に発行した消防年報を見ると、平成30年中の紀宝分署での救急出動件数は509件で、そのうち、約40%は緊急性の低い軽症患者となっています。

救急車は限りある資源です。今すぐに救急車で病院に行く必要がある人のために、私たち一人ひとりが救急車の適切な利用について考えることが大切です。

◆緊急度判定をしまじゅら

救急車を呼ぶべきか判断に迷う場合は、緊急度を重視しましょう。

緊急度とは、時間経過で病気や怪我が悪くなっている（重症化していく）ことで、緊急度が高いということ、重症化するまでの時間が短いということになります。

みなさんが救急車を呼ぶべきか判断に迷った際に、緊急度を判定する参考になるものが、次のようなものです。ぜひご活用ください。

①救急受診ガイド

ご家庭で緊急度を自己判断する際に活用でき、あてはまる症状を選んでいくと、緊急度が判定できます。

※消防庁HPからダウンロードが可能

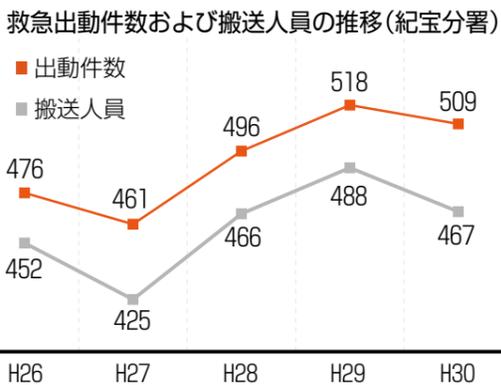
②全国版救急受診アプリ(Q助)

スマートフォンからアプリをダウンロードし、該当する症状を画面上で選択していくと緊急度に応じた対応が表示されます。

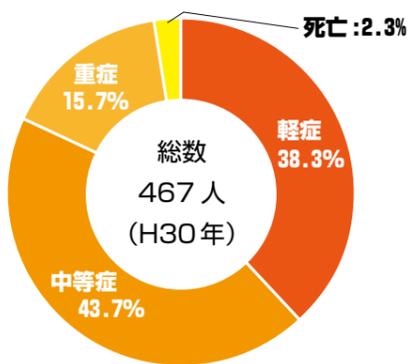
重症度	定義
死亡	初診時において死亡が確認されたもの
重症	3週間以上の入院加療を必要とするもの
中等症	重症または軽症以外のもの
軽症	入院加療を必要としないもの



「Q助」案内サイト



平成30年傷病程度別搬送人員(紀宝分署)



「事前準備と応急処置を徹底することで救える命があります。」



熊野市消防署 紀宝分署 救急救命士 山田卓司 さん
熊野市消防署 紀宝分署 救急隊員 舩屋英規 さん

救急隊は、傷病者の方などから119番要請された場合に、現場に向かい傷病者の観察を行い、どのような状態なのか、どのような怪我・病気の程度なのかを判断し、救急救命処置を行い、傷病者の状態に応じ、病院に搬送します。

紀宝町は、山間部が多いので、全国と比べると搬送に時間がかかることがあります。

そのため、みなさんには、救急車が来るまでにやっってもらいたいことが大きく分けて2つあります。

1つ目は、事前準備です。救急車が来るまでに、保険証やおくすり手帳などを出しておくことや、救急車の案内に出ているだけで、救急活動を迅速に行うことができます。

2つ目は、救える命を救うため、家族の方や近くにいる方が傷病者に対して、正しい応急手当を行うことです。

紀宝分署では昨年30件の応急手当講習会を開催しており、日ごろから応急手当について学ぶことが、みなさんにとっても大切なこととなります。